

ZSSSK

生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都渋谷区立神宮前小学校
東京都渋谷区神宮前4-20-12
TEL 03-5412-0756

発行人 齋藤 等
編集人 小高 和子

第28回 全国小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会 「兵庫大会」を振り返って

大会実行委員長 加藤 紀久
(神戸市立本山南小学校)

令和元年11月14日・15日に兵庫県神戸市・明石市・淡路市において、第28回全国・第22回近畿地区小学校生活科・総合的な学習研究協議会兵庫大会が行われました。全国各地より1,100名(2日間の延べ人数は1,255名)を超える多くの参加者をお迎えして開催できましたことを実行委員会を代表して心より感謝申し上げます。

1. 兵庫発!!未来への懸け橋～子供が変わる 教師が変わる 学校・地域が変わる～

まず「予測困難な時代」を生き抜く人間を作ることが求められている現代社会において、来年度完全実施される新学習指導要領は、未来の教育の目指すべき道標となります。まさにその担い手である子供の姿を兵庫で見せたいと考えました。

次に「生活・総合」の魅力を伝えたいと思いました。「主体的・対話的で深い学び」の探究的な学びを通して、学びを自分事としてとらえる。他教科の既習知識を結び付け新たな知識を創る。学んだことを発信し自分の生活に生かすことです。

そして子供が地域の「ひと・もの・こと」と出会い、地域が活性化し、学校が地域等と共に育む社会に開かれた教育課程が生まれる。そうなれば子供も教師も学校・地域も変わると考えました。

1日目全体会のシンポジウムでは、生活・総合

の始まりは子供の思いや願い、課題意識、自分に問うことをつかむ。教師は指示でなく支援を心掛ける。カリキュラム・マネジメントの目的を学校が明確にする。これらが大切であると知りました。

2. 兵庫ならではのレセプション

1日目の最後を飾ったのはレセプションでした。170名の方に参加していただき、大震災を経験した兵庫の防災を意識した石田裕之氏の歌が心にしみました。改めて生活・総合での学びにつながる「人と人の絆」の大切さを感じました。

3. 会場校での授業公開

2日目は、神戸市立成徳小学校、明石市立大観小学校、淡路市立志筑小学校の3校での提案授業がありました。成徳小では探究的な学校カリキュラムの実際に加え、子供同士の学び合いを促す授業展開が見られました。大観小では、めあて・実践・振り返りを大切にするなかで、考えるための技法が有効活用され、板書の工夫もありました。志筑小は、ルーブリックを毎時間書くことで何ができて、何が分からないのかを明確にしました。

4. 課題別分科会での実践発表

2日目の午後の課題別分科会では、全国から36もの優れた実践が提案されました。「子供が変わる 教師が変わる 学校・地域が変わる」の視点を踏まえた内容の熱い議論が行われました。発表・司会・助言者等の皆様に心から感謝します。

皆様のおかげで、大変内容の濃い2日間となりました。助言いただいた文部科学省渋谷調査官を始め、多くの先生方にお礼を申し上げます。またこれを機に生活・総合の充実に向け、努力していきたいと思っております。ありがとうございました。

第6回中国地区生活科・総合的な学習の時間研究大会（島根大会）を終えて

大会主題

「つながりを生み出す生活科・総合的な学習の時間の学びを求めて ～ふるさとを愛し、未来を切り拓く子どもの育成～」

中国地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
会長 宮崎次光
(島根県松江市立出雲郷小学校長)

令和元年10月31日、八百万の神々が、一年に一度、出雲の国にお集まりになる神在月の時季に、第6回中国地区生活科・総合的な学習の時間研究大会（島根大会）並びに第7回島根県生活科教育研究大会（出雲大会）を、出雲市立四絡小学校と北陽小学校の2校に於いて開催しました。本県をはじめ、中国地区各県、遠くは関東地方からもご参加くださいました。

中国地区では、鳥取・岡山・広島・山口・島根の5つの県で協議会を組織し、各年度の中国地区大会の開催県を決め毎年開催しています。開催地を中心として実行委員会を立ち上げ、島根県生活科教育研究会と密接に連携を図りながら、本県初となる研究大会の準備、運営を行ってまいりました。

さて、本県では、教育施策の一つに「ふるさと教育の推進」を挙げ、小学校段階では、特に「身近な社会との関わりを通して、自分の夢や希望を膨らませること」、「身近な地域について、知る、感じる機会を与えることで、関心を高めること」、「身近な地域の教育資源（ひと・もの・こと）に触れることで愛着を育むこと」等をねらいとしています。

今回の大会主題も、ふるさとの「ひと・もの・こと」へ思いや願いをもって主体的にかかわる姿や対話・思考を通して互いに高め合う姿を求めて設定しました。

生活科の授業を公開された四絡小学校では、「思いや願いをもってかかわり、学びを高め合う子どもの育成 ～必然性や必要感のある単元構想と思考の場を充実させる授業づくり～」を研究主題とし、2つの学年で授業公開していただきました。また、総合的な学習の時間の授業を公開された北陽小学校では、「ふるさとを愛し、自ら学び続ける意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる

北陽っ子の育成 ～夢の実現に向けた単元構想と、対話から思考を深める45分の授業づくり～」を研究主題とし、4つの学年で授業公開していただきました。

四絡小では、

- ・思いや願いを基点として単元を構想したことで、こだわりや関心をもって主体的に学習するようになった。
 - ・想定した気付きの質の高まりを踏まえ、意図的な働きかけや、気付きを表出したり気付きをもとに考えたりする活動を行ったことは、気付きの質を高めるために有効であった。
- また、北陽小では、
- ・カリキュラムデザイン図を作成したことで、資質・能力の関連を考えながら各教科等相互の学びを深めることができた。
 - ・子どもにとって切実感のある、焦点化された課題を解決する場面で思考ツールを活用したり、思考ツールの形式で構造化した板書を行ったりしたことが、対話の深まりにつながった。

等、これまでの研究や取組の成果が、子どもたちの学びの姿にもたくさん見られ、今後の研究や授業づくりに向け、大変参考になる公開授業や授業研究会となりました。

午後からは、北陽小学校において全体会を行いました。開会行事の後、田村学先生から、当日の授業や研究についてご講評をいただき、さらに「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」という演題でご講演をいただきました。

生活科における「学びのプロセス」、総合的な学習の時間における「探求のプロセス」について、当日の公開授業における子どもの学びの姿のプレゼンテーション、授業者へのインタビュー等も交えていただきました。また、「カリキュラムのデザイン」に関して、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で教育の内容を組織的に配列していくことの重要性等について、具体的な例も挙げていただきました。また、「カリキュラムのデザイン」に関して、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で教育の内容を組織的に配列していくことの重要性等について、具体的な例も挙げていただきました。

最後になりましたが、本研究大会の開催にあたり、2年間ご指導をいただきました田村学先生、ご支援並びにご指導いただきました長和博先生（島根大学）、高橋泰道先生（島根県立大学）、島根県教育委員会、出雲市教育委員会、島根県教育研究会、出雲市教育研究会、そして会場校の皆様にご心より感謝申し上げます。

「未来に挑む子ども達」を目指した 宮崎地区の取組～「九州大会」を終えて～

宮崎県小学校生活科・総合的な学習教育研究会

会長 溝 邊 由美子

(第13回九州小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

宮崎大会実行委員長 宮崎市立檜北小学校長)

「宮崎県の状況」

宮崎県は九州南東部に位置し、南国情緒豊かな気候からプロスポーツのキャンプ地としても有名で、観光と神話のゆかりの地でもあります。およそ240の小学校があり、統廃合された学校がある一方で、児童数が1,000人近くの大規模校もあります。小学校教員も大量退職の時代を迎え、多くの新規採用者による授業力の向上が課題となりつつあります。

宮崎県では、市町村ごとに教科・領域別の研究会を組織し、それを生活科では県内7つのブロック、総合的な学習の時間では11のブロックに編成し、それぞれに校長を支会長として活動しているところです。ブロックによっては、夏季研修会に田村学先生を招聘して、中学校の総合的な学習の時間部会との合同研修を実施したところもあります。しかし、学校数の減少とともに活動が十分行えないことが課題となっているブロックもあり、今後ブロックの編成の仕方も再検討していく必要があります。

県レベルの組織での1年間の主な活動は、総会や夏季研修会、2年に1度行われる県大会での授業研究会や実践発表会等があります。宮崎県では長い間、生活科部会と総合的な学習の時間部会は別々に研究を進めてきたという経緯がありますが、全国的な流れや今回の九州大会を踏まえて、今後は2つの部会が連携した形で研究を進めていく必要があると考えています。

また、今年度宮崎大会を実施するにあたり、前年度開催県であった大分県からもたくさんの情報をいただき、運営面でも大変助かりました。これからは、県内だけの研究でとどまるのではなく、広く九州管内の情報を交換し合い、九州は1つというスタンスで生活科・総合的な学習の時間の研究が深められていくことが望ましいと考えています。そして、大量退職の時代にあって、喫緊の課題となっているこれからの若手を育てる研修会が、各県の枠を越えて計画されるようになると、教師にとっても「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことにつながるのではないかと思います。夢を膨らませているところです。

「九州大会宮崎大会」を終えて

令和元年11月22日(金)に、宮崎県宮崎市立檜北小学校を会場に、第13回九州小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会宮崎大会を開催いたしました。

当日は、生憎の雨ではありませんでしたが、九州管内はもとより遠くは京都から、教員や大学の研究者、大学生、幼保園関係者、教育委員会関係者、地域の方々、出版社等387名の皆様にご参加いただき、盛会裏のうちに無事終えることができました。

新学習指導要領の中でも謳われている通り、AI技術の進歩により、これからの予測できない時代を生き抜くことを求められる子供達にとって、必要な資質・能力の育成を目指す生活科・総合的な学習の時間の役割は大変重要であり、これまで以上にその実施に当たり大きな期待や可能性を担っていくこととなります。このような状況を踏まえ、本年度の宮崎大会では、大会主題を『人、もの、ことに向き合い 自己を見つめ未来に挑む子どもの育成～「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを通して～』とし、授業における子供達の具体的な姿を通して実現することへの挑戦を試みました。

午前中は、開会行事や基調提案の後、1年生から6年生までの公開授業を6本実施し、午後は、午前中の公開授業についての授業研究会をワークショップ型で行い、参加者全員で協議できるよう工夫しました。その後、熊本県・大分県・福岡県による実践発表と協議会を行いました。まどめの記念講演では、『「主体的・対話的で深い学び」で育成する生活科・総合の資質・能力』と題して、文部科学省の渋谷一典先生にご講演いただき、これまでの研究及び当日の授業や実践発表の状況を含めて、具体的かつ専門的な見地からご指導を賜りました。新学習指導要領を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の授業実践について参加者全員で大いに学び合うとともに、提案させていただいた研究内容が一層充実していくものとなり、今後の各県での取組に参考になったと考えております。皆様には、さまざまな面からご協力いただき、感謝申し上げます。

宮崎県では、この九州大会を一つの区切りとして、次年度からは、二年ごとに実施している県大会を見据えて、研究・実践をさらに充実・発展させていきたいと考えています。そのためにも、各地区との連携を密にしながら、取り組んでいく計画です。

また、今後も九州管内のネットワークを広げ、若手を育てながら、各県の研究・実践がお互いに響き合うような取組を目指していきます。

生活・総合への期待と関心の高まり

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
会長 齋藤 等
(東京都渋谷区立神宮前小学校長)

小学校では、いよいよ4月から新学習指導要領が全面実施となります。各自治体や学校では、移行措置期間において、趣旨を踏まえた教育活動に取り組んだり、様々な研修等を進めたりしてきたところです。とりわけ「主体的・対話的で、深い学び」や「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」等、改訂の柱となる考え方は、これまで生活科と総合的な学習の時間が大切にしてきた授業づくりの視点と軌を一にするものであり、本研究協議会が推進してきた学習活動を更に充実・発展することによって、そのねらいが達成できるものと考えております。

さて、本研究協議会の最大の事業である全国大会は、兵庫大会として、11月14日・15日の2日間、神戸市・明石市・淡路市の3市を中心とする関係者の皆様のご尽力により、1,100名を超える参加者が集っての開催となりました。詳細は開催地からの報告に譲りますが、3小学校での公開授業や課題別分科会等における参加者の活発な意見交換や情報発信等の様子から、生活科・総合的な学習の時間に対するこれまで以上の期待や関心の高まりを感じております。

また、14日夕刻からの全国理事会では、お集まりの理事の皆様から、ブロック大会の様子を含め、各都道府県・地域の状況をお伝えいただき、その後のレセプションと併せ、有意義な情報交換ができました。ブロック大会は、北海道ブロック(旭川大会・旭川市立向陵小学校)、東北ブロック(岩手大会・奥州市立人首小学校、岩谷堂小学校、江刺東中学校)、関東ブロック(茨城大会・ひたちなか市立東石川小学校、長堀小学校)、近畿ブロック(兵庫大会：全国大会を兼ねる)、中国ブロック(島根大会・出雲市立四絡小学校、北陽小学校)、四国ブロック(高知大会・香美市立楠目小学校)、九州ブロック(宮崎大会・宮崎市立檉北小学校)において、開催いたしました。全国大会及びブロック大会の準備や運営に携わっていただいた学校・地域・関係者の皆様、並びに講師・教育委員会の皆様に、改めて感謝の意を表します。

次年度も、本研究協議会の皆様が連携・協力し、生活科・総合的な学習の時間を中心とした教育活動の充実を力を注ぎ、未来に生きる子供たちの資質・能力の育成に向け、共に頑張ってもらいましょう。よろしくお願ひいたします。

<事務局だより>

全国理事会報告

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
事務局長 小林 佳世
(東京都世田谷区立明正小学校長)

全国理事会は、年間2回開催しています。第1回理事会は例年7月の第1金曜日午後(東京で行い、年間の活動計画や予算案の検討、全国大会・地区大会の案内、情報交換、記念講演会等)を実施しています。第2回理事会は、全国大会の1日目に情報提供・情報交換を中心に実施しています。

令和元年度は、ブロック別の情報交換の充実を図り、実践報告や成果と課題の交流、地区大会の日程調整等を行うことができました。

令和2年度は、北海道ブロックは釧路大会、東北ブロックは青森大会、関東ブロックは千葉大会(全国大会を兼ねる)、近畿大会は滋賀大会、中国ブロックは山口大会、四国ブロックは愛媛大会、九州ブロックは福岡大会が予定されています。

今後の全国大会開催地は、令和3年度大阪大会、4年度東京大会、5年度京都大会、6年度岩手大会、7年度広島大会、8年度宮城大会、9年度滋賀大会、10年度大分大会、11年度神奈川大会、12年度熊本大会、13年度徳島大会、14年度東京大会、15年度香川大会、そして16年度については第2回理事会時点で既に3県から立候補をいただいております。以上ご報告申し上げます。

令和2年度全国理事会のご案内

■ 令和2年度の第1回全国理事会は、以下のとおり開催いたしますので、ご予約おきいただきますようお願いいたします。理事交代予定の都道府県におかれましては、確実な引継ぎをお願いするとともに、新理事名・所属校・連絡先等の情報について事務局長までご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

(メールアドレス kou052@setagaya.ed.jp)

日時：令和2年7月3日(金)

全国理事会・記念講演 14:00～16:45

情報交換の会 17:00～19:00

会場：東京ガーデンパレス 3階白鳳・鶴

内容(予定)：前年度事業報告・決算報告

役員案・事業計画・予算案審議

新会長及び全国大会開催県挨拶

ブロック別情報交換及び全体会

記念講演(講師：教科調査官) 15:30～